



東京女子医科大学学術リポジトリ  
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>



## テュートリアル課題 またほしくなる

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2011
号	B6
発行年	2011-09-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/31190">http://hdl.handle.net/10470/31190</a>

2011年度              Block. 6

課 題              No.4

課題名：またほしくなる

課題作成者：精神医学  
法医学

大下隆司  
木村和彦

シート1

あれから13年が経ち、18歳の山田祐介くんは大学1年生。夏休みの8月2日深夜午前1時頃、意味不明のことを口走り、叫び声をあげ、けいれんを起こしました。驚いた母の由美子さんが救急車を要請し、救命救急センターに搬送されました。

シート2

救命救急センターの内科医師は、左前腕に静脈ラインを確保して鎮静剤を注入後、鑑別に必要な検査を行いました。

シート3

救命救急センターに入院2日後、祐介くんはすっかり回復し、退院することとなりました。祐介くんは救命救急センターの医師に紹介されて精神科を受診しました。

シート4

精神科の医師の勧めに応じ、祐介くんは専門の病院に入院しました。しかし退院すると、すぐに覚せい剤に手を出してしまうため、入退院を繰り返しました。覚せい剤を使用しなくても急に言動がおかしくなることもあり、幻覚も生じるようになりました。大学にも行かなくなりやがて退学となりました。20歳になった祐介くんは、4月5日に渋谷の路上で覚せい剤所持のために現行犯逮捕されました。

シート5

執行猶予となった祐介くんは、自助グループの会合に通うことが心の拠りどころになりました。両親も家族会に参加するようになりました。いがみ合っていた両親といろいろ話せるようになったことを祐介くんはうれしく思っています。覚せい剤をやめて、もう5年になります。でも、ふっと欲しくなることがあります。